

1 計画改定の趣旨

水道事業のアセットマネジメント計画は、水道施設の適切な資産管理のため、新設及び改造の需要を算出し施設の規模・配置の適正化を考慮したうえで 30 年以上の期間を定めて長期的な収支を試算するものと水道法で規定されている。

浜松市水道事業アセットマネジメント計画 2025（令和7年3月）は、浜松市水道施設の老朽化対策や耐震化対策、拡張整備について、近年の物価上昇等による工事費の増大を見込んだ事業費を盛り込み 50 年間の整備方針と投資額の概要を定め策定する。

2 50 年間の建設事業費 事業費 4,510 億円 年間 90 億円

今後の 50 年間で行う必要のある 3 分類の事業について、建設事業費の縮減や平準化を図った結果、4,510億円となった。

表 1 50 年間の主要事業

分類	事業名	主な内容	事業費
老朽化対策 4,140 億円	老朽管更新事業 3,183 億円	老朽管の更新	3,094 億円
		上下水道一体の重要施設ルート耐震化を兼ねた老朽管の更新	89 億円
	施設更新事業 957 億円	老朽化施設の更新	931 億円
		中山間地域における耐震化を兼ねた配水池の更新	15 億円
		水源の多系統化や複数化を考慮した休止中井戸の再整備	11 億円
耐震化事業 165 億円	管路耐震化事業	基幹管路※1の耐震化（耐震管による更新、継手補強）	164 億円
	施設耐震化事業	基幹構造物※2の耐震化（耐震補強）	2 億円
拡張事業 205 億円	配水管布設事業 203 億円	新規給水要望への対応等の水道管の新規布設	184 億円
		水源の多系統化や複数化を考慮した導水管の新規布設	17 億円
	施設整備事業 2 億円	水源の多系統化や複数化を考慮した水源整備	2 億円
3 分類	6 事業	—	4,510 億円

※ 表示単位未満を四捨五入しているので内訳と合計が一致しない

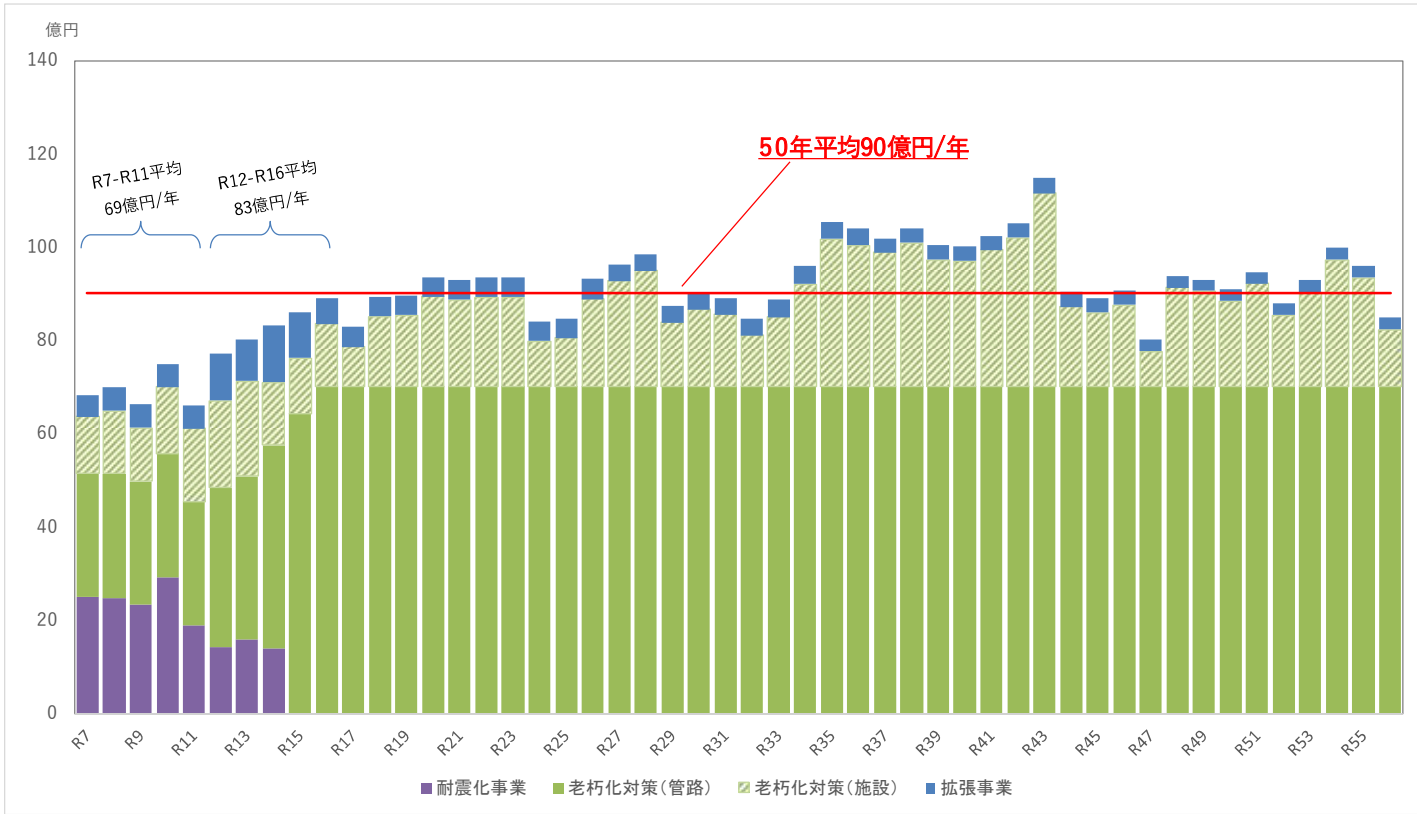


図 1 50 年間の建設事業費

3 個別事業の概要と整備方針

- (1) 老朽化対策 4,140 億円
- ① 老朽管更新事業 3,183 億円
 - 老朽管の更新 3,094 億円
 - ・選択と集中による効果的な管路更新のため漏水が多い CIP・VP の集中的な更新
 - 重要施設管路の耐震化を兼ねた老朽管の更新 89 億円
 - ・配水池から重要施設（99施設）へ水道水を供給するルートとなる配水支管耐震化を兼ねた更新
 - ② 施設更新事業 957 億円
 - 老朽化施設の更新 931 億円
 - ・大規模な更新が必要な構築物（浄水場や配水場など）は実耐用年数を目安に更新費用の平準化し、水需要に見合う適正規模へのダウンサイジングなどにより更新コストを縮減
 - ・設備（ポンプや受変電設備、計装機器など）はオーバーホールなどによる延命化を図りながら計画的に更新
 - 中山間地域における配水池の耐震化 15 億円
 - ・被災時にも貯水・配水ができるように耐震構造物への更新（緑恵台配水池等の 8 施設）
 - 水源の多系統化や複数化を考慮した休止中井戸の再整備 10 億円
 - ・自己水源（深井戸）を有効活用するための再整備（現在中止中の平口水源など7水源）
- (2) 耐震化事業 165 億円
- ① 管路耐震化事業 164 億円
 - 基幹管路の耐震化 164 億円
 - ・配水本管 9 路線について耐震化（耐震管への布設替えや既設管の継手を補強）
 - ② 施設耐震化事業 2 億円
 - 基幹構造物の耐震化 2 億円
 - ・基幹構造物の耐震化（大原浄水場 2 系沈殿池整流壁の耐震補強）
- (3) 拡張事業 205 億円
- ① 配水管布設事業 203 億円
 - 新規給水要望への対応 184 億円
 - ・今後の人口減少を踏まえて新規給水要望件数の減少を見込む
 - 水源の多系統化や複数化を考慮した導水管の整備 17 億円
 - ・自己水源（深井戸）を有効活用するための新規整備（半田水源など 6 水源）
 - ② 施設整備事業 2 億円
 - 水源の多系統化や複数化を考慮した水源整備 2 億円
 - ・半田町地内に設置した試験用井戸を深井戸施設として整備